

学習指導改善調査 実践モニター 実施計画書

私のプロフィール		
氏名	平松 寛隆	
勤務先	長岡市立与板小学校	
○ 担当学年・実践教科 小学6年生・国語		

★取組の方向

私 の 教 育 理 念	<p>子どもは集団の中で育っていく。教師は、集団を見取り、集団の中の個を見取っていく。国語ほど子どもの実態を見取ることが難しい教科はないと感じます。子どもの実態を見取り、教師も子ども自身も、力が伸びたと感じる授業を謙虚に学び続けます。</p> <p>国語の時間で身につけさせたい「論理的思考力」は、あらゆる教科の基礎となる力です。「論理的思考力」がゼロの子はいません。しかし、目に見えない「壁」があって、そこを乗り越えられない子どもたちと自分がいるのです。細分化して、ねらいをさらに明確にすることが鍵であるように思います。</p>
学 級 実 態	<p>「学習指導改善調査」によって、確認されたことは、「全員が字数はクリアした。ほとんどの子どもが、立場が一貫している。文法的なねじれが少ない」というよさでした。しかし多くの子どもが「提示された条件が何か抜け落ちている。」という詰めの甘さを示していました。また、テストの点数の高さに反して、説得力を感じない文章が多かったのです。これは、切り込みの鋭さ、相手を納得させるための手だてが明確でないためと思われます。私は「積極的な説得力」を高めることが学級の学力を上げるために必要であると思います。</p>
今 後 の 指 導 の 方 向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提示された資料などから、制限時間内に自分の考えをまとめる活動の充実。 ・ どの子にもできる説明の仕方のモデリング(細分化して順序よく説明する力) ・ 討論を積極的に取り入れていく。 <p>国語力の土台となることとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読カードの継続。 ・ 毎週の漢字テスト。 ・ 朝のスピーチに指導を加えていく。 ・ あいさつ、返事、はきはき最後まで話すことなど、今まで「まあいいか」と思っていたことをしっかりチェックし、きちんとできる部分を増やす。